

学内合同会社説明会を開催

来春卒業・修了見込みの学生を対象とした合同会社説明会が、2月12日（水）、13日（木）の2日間、本学の講堂を会場に開催されました。

今年は、12日が35社、13日が46社の計81社もの企業にご参加いただきました。

学生は両日とも約170名の学生が参加しました。例年全学生のうち、約8割が就職を希望することから、就職希望者の約9割が出席している計算になります。

今回の合同会社説明会は、「新潟工科大学産学交流会」の支援事業の一環として開催されました。同会は本学の支援団体で、会員企業数は約250社、新潟県内に本社を持つ企業を中心に構成されています。これは他大学では例を見ないことであり、就職先としてだけでなく、インターンシップの受入れや、会員企業の社長や役員を授業の講師として派遣するなど、本学の教育研究活動全般で支援を受けています。



また、昨年からは、より多くの機会を作るため、本学卒業生の就職先企業に対しても間口を広げ、参加企業を募りました。その結果、新潟県以外の出身学生の受験や、継続的な採用につながるなどの成果がありました。

本学の合同会社説明会では、企業ごとにブースを設け、学生が訪問する方式を取っています。参加企業の人事担当者は、絶えることなく訪問してくる学生に対し、自社製品やパンフレット、なかにはノートパソコンを利用してわかりやすく説明していました。慣れないスーツを身にまとった学生たちが、関心のある企業のブースに向かい、食い入るように説明を聞きいている姿が印象的でした。

参加した企業の反応は、「熱心である」、「真剣さが伝わる」と好評である一方、「おとなしい」、「もう少し元気がほしい」との意見も出されました。本学学生の傾向として、比較的積極性に欠ける学生が多いことから、「プレゼンテーション能力」を向上させるような指導を行っていきたいと考えています。

学生係長 三浦 岳大

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2002/godokaisha02.htm>〕

CONTENTS

- 1 学内合同会社
説明会を開催
- 2 平成14年度
卒業式&祝賀会
- 3 卒業生の
職場を訪ねて③

バイオ技術
試験合格者
- 4 工科大祭
インタビュー

要約筆記って？
- 5 柏崎の
まちづくりに
対して
斬新な提言

ゆめテク新潟に出展
- 6 平成15年度
入学式を挙行

蓮池薫さんが
朝鮮語の
非常勤講師に

地濃教授
韓国で講演
- 7 村上教授が
学会コンテストで
優秀賞

判澤教授の
提言が
奨励賞を受賞

柏崎工業高校
での出張講義
- 8 今年度の公開
講座について

オープンキャンパス
のご案内

平成14年度卒業式&祝賀会

第5回工学部卒業式・第3回大学院工学研究科修了式が3月21日（金）、本学講堂で行われ、工学部227名と大学院工学研究科博士前期（修士）課程11名が学び舎をあとにしました。

丹野学長は式辞で、「知識の習得と技術開発力を養成し、人間性豊かな教養人であるよう努めてほしい。困難にぶつかっても、全力を尽くせば道は開ける」と激励の言葉を述べました。



今回の大学院修了生のなかには、70歳の社長・吉田晃さんも含まれていました。吉田さんは、静岡県浜松市で打放しコンクリート仕上げ工事を全国に展開する「ニチエー吉田」の取締役社長で、2年前、コンクリート工学が専門の地濃茂雄教授の勧めで大学院を受験しました。実質的な経営からは退いているものの、柏崎と浜松を何度も往復しながら経営と研究に励む姿勢は、学生諸君にもぜひ見習ってほしいものです。



卒業・修了祝賀会は、柏崎市民プラザに会場を移して行われました。厳肅な雰囲気での卒業・修了式から一転して普段どおりの姿に戻った卒業生・修了生らは、お世話になった先生と談笑したり、別々の人生を歩む仲間たちと記念撮影をして楽しい時間を過ごしました。

また、この祝賀会で、一人の卒業生にボランティア団体から感謝状が贈られたことが披露されました。機械制御システム工学科を卒業した大田利光さんは、入学以来ボランティア同好会のメンバーとしてさまざまな活動に取り組んできました。今回、知的障害を持つ方々の社会参加のための活動が地域の福祉に大きく寄与したとして、市民ボランティア団体である「トライネット」様から感謝状をいただきました。本学にとっても大変名誉なことであり、会場内から大きな拍手が起っていました。〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2002/sotugyo14.htm>〕



卒業生の職場を訪ねて③

司会：本来は卒業生の職場を訪ねる企画ですが、今回は、昨年3月（平成14年3月）に物質生物システム工学科を卒業した嶋田圭吾君に大学に来て頂きました。嶋田君、よろしくお願いします。

嶋田：高信化学（株）の嶋田です。卒業研究は、竹園先生にご指導を受けました。卒論題名は、「発泡性下廃水の活性汚泥処理」で排水の微生物を利用した処理についてでした。現在は、科学機器や試薬等の販売を担当しています。群馬県内をメインに営業活動を展開していますが、月に1度位の割合で工科大学にも寄せていただいています。いつもお世話になっています。

司会：こちらこそ、無理難題ばかりで申し訳ありません。竹園先生、嶋田君の学生時代は、どうでしたか。

竹園：嶋田君は、就職活動や卒業研究に熱心にやっていましたよ。遅刻なんかほとんどなかったし、しっかりと挨拶のできた学生だったと思います。

司会：私も挨拶のしっかりできた学生だったと記憶しています。今日は、主として後輩への就職活動についてアドバイスをしていただけたいと思います。

竹園：確か、最初の頃は、食品系の企業を希望していましたよね。

嶋田：はい。私以外にも、多くの物質生物の学生は、食品会社を第1希望にしていたと思います。それと、私は群馬県出身ですので、できれば群馬県、もしくは関東に戻れればと思っていました。

司会：具体的にどのような就職活動をしていましたか。

嶋田：まず、群馬県で開催された合同説明会に極力出席するようにしていました。それと、インターネットで就職活動支援HPにいろいろとエントリーしました。

竹園：現在の会社は、合同説明会で初めて知ったのでしたよね。

嶋田：よく覚えていましたね。当初は、食品会社のブースを主に回っていましたが、自分の想像していたのと違う会社も多く、たまたま、待っている学生の少ないブースに行ってみようと思い、立ち寄った所が、今の会社のブースでした。説明を受けているうちに、なんとなく面白そうだったのがきっかけでした。

司会：早い時期から積極的にいろんな会社にはアタックしてみるということですね。

嶋田：そうです。それと、実際の仕事内容をよく聞いてみるのも役立つと思います。初めは、営業職に関心はありませんでしたが、今では、いろんな人と話ができたり、非常に面白く仕事をさせてもらってます。

竹園：と言うことは、今の仕事は、君の天職だったりして。

嶋田：そうかもしれませんが、ただ、まだまだ毎日が勉強で、いろんな機器や試薬等について調べたりしています。卒業研究の時、最初の頃は、竹園先生の言われたことだけをやっていましたが、後半は自分なりに考えながら実験をさせてもらったことが、結構、今の仕事に役立っていると思うこともあります。

竹園：そう言ってもらえるとうれしいですね。

司会：最後に、ちょっと会社のピーアールをしたらどうですか。

嶋田：機器や試薬にかかわらず、なんでも結構ですので、お声をかけて下さい。それと、来年の3月に卒業予定の学生を是非紹介して欲しいと上司より伝言がありました。

竹園：嶋田君のメールアドレスは、shimada-keigo@koshin-chem.co.jpです。会社のTELは、027-361-3221、FAXは、027-361-4007です。4年生の皆さんもいかがでしょうか。

司会：竹園先生、嶋田君、本日はどうもありがとうございました。それと、今日の注文もよろしくね。

（司会：物質生物システム工学科 助教授 小野寺正幸）



バイオ技術試験合格者

平成15年2月1日（土）に、第8回上級バイオ技術認定試験と第12回中級バイオ技術認定試験が行われました。今回から、本学での受験が可能となり、本学学生にとっては新潟市まで出向く必要がなくなりました。上級及び中級の合格者を以下に示します。

上級バイオ技術認定試験合格者：片平 誉、村山洋介 以上2名

中級バイオ技術認定試験合格者：井倉将人、尾崎佳一、相澤孝宏、高津裕介、武田 正、登内隆志、那須健男、野瀬広志、諸橋 巧、山口 望、山崎美保、横尾 満、渡貫大介、阿彦春喜、中俣岳瑠、矢崎琢也 以上16名

次回は、平成16年2月1日（日）に本学にて開催予定です。詳細は、日本バイオ技術教育学会のHP（<http://homepage2.nifty.com/biogakkai/>）にて公表されます。

なお、今年度より、中級バイオ技術認定試験の合格を目的とした「バイオテクノロジー総論」が後期（集中講義）に開講します。2002年度入学の2年生からしか卒業単位認定となりませんが、中級を受験希望の3年生や4年生も是非参加しましょう。来年度は、上級の合格を目的とした「応用細胞工学」が開講されます。つきましては、上級を受験希望の学生を対象とした支援講座を後期に予定しています。詳細は、後日連絡します。

物質生物システム工学科 小野寺 正 幸

工科大祭インタビュー

今年で8回目を迎える工科大祭が、昨年までとはかなり変更があったみたいです。早速、実行委員長に聞いてみましょう。

(聞き手) 今年の工科大祭について伺いたと思います。見須君、お願いします。

(見須雄一) 第8回工科大祭学生実行委員長の見須雄一と申します。現在、建築学科3年生です。第6回工科大祭の時から学生実行委員会に参加し、今回で3年目です。

(聞き手) 3年目ですので、かなり段取りなんか周知してますね。ところで、今年の工科大祭は、いつ開催されますか。

(見 須) 例年、秋に開催されていましたが、今年は、**6月21日(土)**の1日開催となりました。なお、20日(金)はスポーツ大会(フットサル、3on3)を行う予定です。20日の夕方には、なんらかの宣伝活動をしたいと思っています。

(聞き手) 催し物等でピーアールはありませんか。

(見 須) まず、柏崎市の教育センターで行われている「科学の祭典」を本学で共同開催することになりました。また、昨年に引き続き、お笑いライブを講堂にて行う予定です。「ペナルティ」と「井上まあ」という二組に来てもらうよう現在交渉中です。部、サークル、有志の模擬店等を行います。今年は、実行委員会も模擬店を出そうかと考えています。

(聞き手) 「科学の祭典」を共同開催するということは、小学生の来場が多くなるのかな。

(見 須) そうなると期待しています。さらにそのご両親やおじいちゃん・おばあちゃんも来てくれそうです。そんなことも考慮して、お笑いライブがマッチしてるかなと思います。

(聞き手) 「笑うこと」は長寿の秘訣ですからね。ところで、今年は1年生が実行委員に多く参加しているとのことですが。

(見 須) はい、例年に比べると多くの1年生が実行委員になっています。おかげで実行委員部屋の鍵が足りなくなり、新たに今年の予算で作成しました。

(聞き手) それはうれしい悲鳴ですね。いろいろ大変でしょうが、工科大祭が大いに盛り上がるよう頑張ってください。

(見 須) わかりました。先生方や職員の皆様にも是非ご協力お願いします。

(聞き手) 了解しました。

(聞き手 工科大祭助言指導委員 小野寺正幸)

要約筆記って？

みなさんをご存知ですか？要約筆記とは、「耳の不自由な人に講演者の話をその場で文字にして伝える筆記・即時通訳」のことです。県内には13のサークルがあり、ここ柏崎では要約筆記サークル「山百合」が活動しています。講演以外にも、大学では(…に限らず)難聴学生に対して講義内容を書き取るノートテイク、病院での受付や診断、裁判なども含めて活動場所は様々です。

本人に代わって返事をしたり喋ったりするような事はせず、あくまでも通訳として付き添います。書いた内容は記録ではなく情報保障なので、利用者の要請がなければ破棄します。

より多くの皆様に知って貰いたい…まずは「知る」ことから。認知されることで社会的にも変わってくるはずですよ。

情報電子工学科 4年 田 邊 理



柏崎のまちづくりに対して斬新な提言

昨年10月、柏崎市主催の政策提案コンペ「プロジェクト21」の公開審査会が行われ、本学からは建築学科4年の河合悟君がリーダーを務めるチームによる「みんなの心と体をうごかすまちづくり」が優秀賞を獲得しました。本コンペは、過去の入賞例をみると特に実現の可能性を重視した審査基準となっているようですが、この作品は柏崎をスポーツのまちとして活性化させようというアイデアの斬新さ、学生らしさに満ち溢れたまちへの夢、そしてそのCGアニメ表現などが高く評価されました。

このように、本学学生はさまざまに柏崎をとらえています。本学4学科の学生はそれぞれに、柏崎のまちに対する提案をしばしば卒業研究という形にまとめ、柏崎の持つ問題点の指摘と解決方法、そしてその将来像を描いています。そして今年2月末、「柏崎に関する研究発表会」が開催され、それらの成果の一部を学外に発表する機会を得ました。先の河合君の提案の他、商店街の活性化方法、海からの飛塩粒子、植生の活性度などの問題に関して、う～んとうなってしまうような説得力のある調査結果が次々と報告され、超満員の会場は発表会終了後もあちこちで議論がおこっていました。

本学学生が、地元柏崎に対する提言の発信源として、その中心的な役割を果たし始めていることをあらためて感じました。

建築学科 教授 飯 野 秋 成

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2002/project21.htm>】



「みんなの心と体をうごかすまちづくり」の提案にある「サンセットロード」(上)は、海沿いの風雨を和らげる数々の機能が盛り込まれ、車椅子利用者などにも優しいつくりだ。そして、「ポイントカードセンサ」(左下)を市内のあちこちに設け、ジョギングなどでポイントを集める。そのポイントでスポーツ施設などが割引になる...実現性という点では、セキュリティ一つとっても難問が多い。しかし「若者もお年寄りも、障害を持つ方もみんな外へ出ようよ」という発想は、学生たちの素朴な優しさが生み出した柏崎のまちづくりの一つの方向性ではないか。

ゆめテク新潟に出展

新潟市の万代島にオープンした朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）において、ゆめテク新潟'03が5月1日（木）から5日間にわたり開催されました。本学からも「生物・生命科学の可能性」のコーナーで、バイオとITの新たな融合技術についてブースを出展しました。

この催しは朱鷺メッセ開業記念事業として、毎日の暮らしと密接に関わる科学・技術を紹介するというもので、新たな名所、しかもゴールデンウィークということもあり、大勢の家族連れで賑わいました。

本学のブースは、物質生物システム工学科の小野寺正幸助教授らが中心となり、「植物における環境ストレスを可視化してみよう」「バイオガスを作って、循環型社会を実現しよう」「携帯電話から、顕微鏡をのぞいてみよう」の各テーマについて実演を行いました。なかでも、顕微鏡に映る画像を来場者の持っている携帯電話を通して見るという実験では、大人から子供まで興味深く見入っていました。

またこの期間中、物質生物システム工学科4年の荒木直人君が、実験の補助として大活躍してくれました。連日の自宅と新潟の往復、何よりもGWを犠牲？にしての厳しい日程にもかかわらず、来場者に熱心かつ丁寧に接している姿はとても頼もしく見えました。

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/yumetech.htm>】



平成15年度入学式を挙行

第9回工学部・第5回大学院工学研究科入学式が4月5日（土）、本学講堂で行われ、工学部317名（うち3年次編入学10名）、大学院工学研究科博士前期課程（修士課程）15名が晴れの日を迎えました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、入学生を上回るご父母の方にもご出席いただきました。

各学科の入学者は以下のとおりです。

【工 学 部】

機械制御システム工学科	83名（うち3年次編入学5名）
情報電子工学科	101名（同 4名）
物質生物システム工学科	66名（同 1名）
建 築 学 科	67名

【大学院工学研究科】

博士前期課程（修士課程）	
高度生産システム工学専攻	5名
自然・社会環境システム工学専攻	10名

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/nyugaku15.htm>〕



蓮池薫さんが朝鮮語の非常勤講師に

北朝鮮から帰国した蓮池薫さんが、4月から本学で朝鮮語の非常勤講師として教壇に立っています。

本学では昨年末に拉致被害者支援室を設け、蓮池さんご夫妻や北朝鮮にいる子供たちが帰国した際の受け入れなどの準備を進めてきました。蓮池さん自身も自分の能力を生かせる仕事を希望していたことから、選択に迷いはなかったようです。

柏崎市役所で臨時職員として業務をこなす傍ら、本学では月曜と金曜の週2回、1年生が4～7月に履修する「朝鮮語Ⅰ」の講義を担当していただいています。「わかりやすい説明と」、新入生への評判も上々のようです。今後も自身の経験を生かして、学生たちを鼓舞してほしいと同時に、両国間の関係が好転し、一日も早くお子さんと再会できるようお祈りしています。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2002/hasuike.htm>〕



地濃教授、韓国で講演

建築学科の地濃茂雄教授がこのほど、韓国建築施工学会に招かれ、高麗大学を会場とした同会年次大会の記念講演の講師として登壇しました。同会は、産・官・学の研究者と技術者から成る3,000名を擁す団体です。

「鉄筋コンクリート工事の留意点」と題した記念講演には、300名を越す会員が聴講し、会場からの盛大な拍手と、崔寅星会長からは感謝牌が贈られました。

翌日、同教授は壇国大学の特別講演会の講師として、建築を志す学生たちに、建てること、築くことの素晴らしさや建築への夢を語りました。講演後、学生代表から花束と、大学からCertificate of Appreciation牌が贈呈されました。



村上教授が学会コンテストで優秀賞

情報電子工学科の村上肇教授が、MEとバイオサイバネティックス研究会（電子情報通信学会、日本エム・イー学会、IEEE EMBS Japan Chapter）主催の「高齢者在宅データ解析アルゴリズム開発コンテスト」で優秀賞を受賞しました。このコンテストは、学会から提供された独り暮らしのお年寄りの生活データを解析して、体調の異常を推定する手法を考案し、その優劣を競うものです。今回、村上教授の「日常生活動作の抑制に着目した独居高齢者の体調不良の推定」という研究は、事前に投稿していた論文と3月17日の口頭発表とが総合的に評価され、優秀賞を受けました。



判澤教授の提言が奨励賞を受賞

教養系の判澤純太教授が昨年11月、新潟日報社などが募集した「新潟県経済活性化のための提言」において奨励賞を受賞しました。

この提言は、創刊60周年を迎えた新潟日報社と設立30周年を迎えた新潟経済社会リサーチセンターが、新潟県の経済や地域産業の活性化に向けた新たな指針・戦略を探ることを目的として募集したもので、三百数編の応募のなかから、最優秀賞、優秀賞各1編、奨励賞6編を選出しました。

判澤教授は「県経済再活性化の提言」のなかで、「県経済再活性化の方法として、県内にダブルの産業『県』土軸、すなわち新潟、長岡、新発田を三角形のそれぞれ頂点とする県土軸Aと、上越、長岡、柏崎を同様とする県土軸Bを形成し、それぞれが産業spill over効果によって活性化が増幅し発展する。その成否は上越・新潟市間に越後線を利用した所要1時間の特快の開通にかかっており、それによって各県土軸の中心である新潟市と上越が相互にspill overを起こすことにかかっている。県『単位』産業水準の産業投資方式では、『広域行政圏事務組合』を強化し、そのモチベーションを主体にEUの国際・地域産業開発方式（地中海、バルト海）を援用し、広域行政圏『際』産業投資を積極化すべきだ」と提言しています。

柏崎工業高校での出張講義

3月18日（火）、本学の教員10名が柏崎工業高校で出張講義を行いました。対象生徒は機械科、電子機械科、電気科、工業化学科の各1、2年生で、9時から約1時間にわたり各々の専門分野の基礎について講義しました。

昨年に続き2回目となりますが、高校生に理解してもらおうと、各教員とも工夫をこらして準備したようで、生徒の反応は大変良く、どの教室も熱心に聴講していました。普段とは違った雰囲気の中で、生徒はかなりの影響を受けたようでした。受講した生徒からは、以下のような感想が寄せられました。

- ・ ロボットの構造の講義を聴いて興味が湧いたので、（ロボットに）関連した進路を考えていきたい。
- ・ 話しが難しかった。特にアボガドロ数を求めるときの計算が完全に理解されなかった。しかし化学は、失敗しながら何回も実験を繰り返し、その結果いろいろな説が成り立ち、新しい化学技術が使われていることが分かった。だから失敗にも諦めずに挑戦することが大切だと思った。
- ・ 分かり易く、楽しい説明で面白かった。新潟工科大学に興味をもてました。多くの人々の役に立つことをやることは素晴らしいと思いました。もっと詳しく聞きたいと思いました。

附属図書館 室長 小林 俊 雄（前柏崎工業高校教頭）



今年度の公開講座について

今年も教養講座と技術講座の2テーマで実施します。物質生物システム工学科による技術講座では、従来の講義に加え、初めて実験を取り入れた体験型講座を用意しました。今年度もふるってご参加ください。

1. 教養講座「体験学習による人間関係トレーニング講座」



日 程：6月28日（土）、29日（日）

会 場：柏崎市民プラザ

講 師：渋谷 崇 行 助手

対 象：人間関係に興味がある成人で、2日間の講座に参加できること。遅刻、早退は不可

受講料：無料。ただし、教材費として1,000円が必要です。

2. 技術講座

(1) 実験編「実験しよう！分子を分ける・切る・測る・使う」

日 程：9月10日、17日、24日、10月1日、8日（水） 全5回

会 場：新潟工科大学・物質生物第1学生実験室（南棟地下1階）

受講料：無料。ただし、保険料として実費（1,000円程度）が必要です。

(2) 講義編「明日を育む化学」

日 程：10月22日、29日、11月5日、12日（水） 全4回

会 場：新潟工科大学・S1大講義室（南棟1階）

受講料：無料。ただし、テキスト代として500円が必要です。

《公開講座に関するお問い合わせ・受講申込先》

学生課 電話 0257-22-8102

E-mail gakusei@adm.niit.ac.jp URL <http://www.niit.ac.jp/guide/kokai2003/koukai03.htm>

オープンキャンパスのご案内

第1回目：7月26日（土） 第2回目：10月4日（土）

午前11時30分から午後3時30分

模擬実験 入試説明 学内見学 学食無料開放 無料送迎バス運行

毎年県内外から200名以上が参加する本学のオープンキャンパスは、受験生だけでなく、ご父母の方も小中学生も大歓迎です。本学自慢の実験設備・機器に触れられる数少ない機会ですので、ぜひご参加ください。

当日は、新潟、長岡、直江津、柏崎のほか、第1回目は県外の高崎と長野から無料送迎バスを運行します。みなさんのお越しをお待ちしています。

《オープンキャンパスに関するお問い合わせ・参加申込先》

学生課入試係 電話 0257-22-8188 E-mail nyuushi@adm.niit.ac.jp



自作ソフトウェアを体験
（昨年のオープンキャンパスから）

編集後記

早いもので、本誌も第3号となりました。今号の編集時には特に、本学教職員の広報誌への関心の高さを感じました。記事掲載の呼びかけに次々と掲載希望メールの嵐。「スペースこれしかないんですが短くできます？ できますよねっ！」「ちょっとだけ短く編集させていただきますね（・・・バツサリ）」等々、情報をご提供いただいた先生方に少なからず涙をのんでいただいて、なんとか形にすることができました。それだけ、毎日を熱く活動して多方面に成果を上げられている教職員や学生が多いということなのでしょうね。今後も、本学のホットな情報をたくさんお届けできるよう、紙面づくりを工夫していきたいと思います。今号の感想がありましたら是非お寄せいただければと思います。（飯野）

発行

新潟工科大学広報誌 第3号
平成15年5月15日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195

新潟県柏崎市藤橋1719

TEL.0257-22-8111（代表）

FAX.0257-22-8112

E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp

URL:<http://www.niit.ac.jp/>